

## 春あられ

記録的寒波が過ぎ去り、3月からは暖かい春に突入しました。今年は季節の移り変わりが激しかったため、生き物はその影響を受け、自然界で様々な変化があったと思われます。そして、これからの季節に、どのような影響があるのかは、またその時の楽しみになるのではないのでしょうか。「虫の出」、「カエルの産卵」、「渡り鳥の飛来数」、「花の開花」など、年によって変わるものでしょう。

これからは、自然を満喫できるベストシーズンの一つになりますので、野外に出る準備をして自然の大切さと素晴らしさを実感しましょう。あきる野の自然の花や新緑のシーズンを楽しみたいなら、多様な広葉樹林の割合が多く存在する戸倉山地、または草花・秋川丘陵などがおすすめです！



イカリソウ



戸倉山地

## 春の蝶々の順番子！！

冬の間、強い寒波の影響により、チョウなどの昆虫類をあまり見る機会はありませんでした。例年なら、2月中の暖かい日には越冬中のルリタテハやテングチョウなど、目覚めの早い虫が活動する事は珍しくありません。しかし、今年は、3月中旬まで昆虫の世界は非常に静かでした。その後は気温の急上昇により、ツマキチョウなどのシロチョウの仲間やヒオドシチョウなどのタテハチョウの仲間、代表的な春の蝶であるミヤマセセリは活発に飛び回るようになりました。4月からはアゲハチョウやシジミチョウなどの仲間も増加し、同様に多くの昆虫の季節が始まります！



ルリタテハ



ツマキチョウ



ミヤマセセリ



ヤマアカガエルの卵塊

## 待ちに待ったカエルたち

例年、1月頃の寒い中で、様々な両生類が産卵の時期に入り、2月中はヤマアカガエルの産卵ピークが目立ちます。川辺や民家近くの池でよく見かけられる暗色のオタマジャクシのほとんどはこのヤマアカガエルの次世代であると思います。一方、今年の早春頃は極寒だけでなく、雨量が足りなかったためか、これらの両生類の産卵のピークは1か月以上遅くなり、場所によりそのピークが分断されてしまいました。

冬の間は、植物や昆虫類に頼ることが難しくなる越冬中の様々な哺乳類や野鳥は、この冬季は更に両生類の出現が遅かったため、越冬は困難だったことが推測されます。

3月中旬にはやっとまとまった雨が降り、トウキョウサンショウウオを初めに多くの両生類が産卵のピークを迎えました。4月以降は、山地部では特にタゴガエルやアズマヒキガエル、河原ではカジカガエルが主役になり、そして農地などで田んぼの水入りと共にシュレーゲルアオガエルやニホンアマガエルが目立つようになります。

## コロコロと転がってくる「ヒキちゃん」

ある日、数年に渡り管理しているビオトープ(水場)を確認していたところで、山から奇妙な音が聞こえてきた。かさこそと、ゆっくり水場に近づきながら、ググググッ…と鳴いています。待ってみると現れてくるのはアズマヒキガエルです。単独の個体もいれば、オスメスで複数個体がボール状に絡まり(抱接中)転がってくる場面も見られました。

アズマヒキガエルは大型で、体はごつごつのふて顔のような表情のカエルで、「キモイ」という人は少なくありませんが、よく見るとけっこう「キモカワイイ」

の方に見えてきます。ヒキガエルの仲間の幼体は1cm程度ですが、成体は手に乗らない程大きく、日本産の他のカエルでは見られない成長力です。



アズマヒキガエルのふて顔

## 泡たっしい雰囲気「アオちゃん」

カエルの卵といえば、「タピオカドリンク」の様な見た目の卵塊をイメージするのは基本ですが、アオガエルの仲間たちは、白い泡の様な塊(時間が経つとクリーム色になったりします)の中に卵を産み付けます。カエルというよりも、カマキリやアワフキムシなどの昆虫類の産卵に似ています。

アオガエルの仲間は、水辺の土や草など(基本的にシュレーゲルアオガエル)や少し高い位置の木の枝(モリアオガエル)で産卵し、その後、成長していくオタマジャクシは自力で泡から抜け出して水の中にぼたっと落ちてきます。

4月といえば、田んぼや明るい場所の池などで産卵のために集まるシュレーゲルアオガエルの鳴き声が印象的ですが、他にもたくさん両生類に出会える時期です！



シュレーゲルアオガエル